

第13回 循環器専門医を志す研修医のための卒後セミナー

循環器卒後サマーキャンプ

日頃のギモンは今日解決する！

毎年開催しております日循卒後セミナーも今年で第13回となりました。本年も小人数グループによるディスカッションを軸に意欲的なテーマを設定いたしました。定評のあるチューター陣によるバックアップがありますので、どうか皆さん奮ってご参加ください。

※セッション内容につきましては事前にメールにて資料をお配りします。

Ice Breaking セッション；

「病気にしない！させない！診断・治療の前にまず予防から」

西原 崇創（東京医科大学八王子医療センター）

午前のセッション；

「エビデンスか？ フィーリングか？」

カテーテルの適応を現実的に判断しよう」

香坂 俊（慶応義塾大学）

「不整脈—その常識と非常識」

里見 和浩（東京医科大学）

ランチョンセミナー；

「この人はあの時何を！」

司会：中川 義久（天理よろづ相談所病院）

①志賀 剛（東京女子医科大学）、②香坂 俊（慶応義塾大学）、③尾野 亘（京都大学）、

④真鍋 晋（土浦協同病院）、⑤中川 義久（天理よろづ相談所病院）

午後のセッション；

「実践、ハートチームアプローチ！ ハイリスク重度ASの治療方針をとことん議論しよう」

内科／西原 崇創（東京医科大学八王子医療センター）

外科／田端 実（東京ベイ浦安市川医療センター）、真鍋 晋（土浦協同病院）

Basic Science Lecture；

「生体内におけるATP動態の可視化とその可能性」

座長：尾野 亘（京都大学）

演者：山本 正道（京都大学 腎臓内科、さががけ研究者）

外科・内科問わず
循環器診療に携わる
全ての若手の先生方が
対象です！

日 時／2017年7月9日（日）
10:00～16:00（9:30受付開始）
会 場／大手町サンケイプラザ

参 加 費／3,000円（昼食付）
募集人数／70名 申込順
締切予定／6月23日（金）予定

企画：日本循環器学会 教育研修委員会 卒後セミナーワーキンググループ
（志賀 剛、尾野 亘、香坂 俊、里見 和浩、田端 実、中川 義久、西原 崇創、真鍋 晋）



●プログラムの詳細・参加のお申し込みは、日本循環器学会ホームページ・ピックアップコンテンツ「第13回循環器専門医を志す研修医のための卒後セミナーのご案内」からお申し込みください。

●お問い合わせ：日本循環器学会事務局 教育研修委員会

TEL:03-5501-0861 FAX:03-5501-9855 E-mail:j-kyoken@j-circ.or.jp

循環器卒後サマーキャンプ

日頃のギモンは今日解決する！

プログラム

Ice Breaking : 西原 崇創先生

40分

「病気にしない！ させない！ 診断・治療の前にまず予防から」

診断や治療をどうすべきかを考えることももちろん大切ですが・・・、その前に！ まず病気を予防するにはどうすべきか？ を一緒にクイズ形式で考えましょう。セミナー最初のセッションは、頭の体操からです。

午前のセッション : 香坂 俊先生、里見 和浩先生

90分

「エビデンスか？ フィーリングか？ カテーテルの適応を現実的に判断しよう」

香坂 俊先生

カテーテル・インターベンションと言えば循環器の花形といえる手技ですが、その使い方については、ガイドライン上の記載と現実(リアル)の診療の間に若干ギャップがみられるようです。このセッションでは、ごく簡単にカテーテル・インターベンションの現在の考え方を紹介した後に、実際に経験した症例を提示させていただき、参加者の皆さんと共に「リアル」な判断をしていきたいと思います。ともすればカテは「やるかやらないのか」という二元論で語られて終わってしまいますが、グループ間の議論を通じてその判断で「何をを得て何を失うのか」ということも掘り下げられればと考えています。

「不整脈—その常識と非常識」

里見 和浩先生

臨床ではガイドライン通りにはいかない患者さんにしばしば遭遇します。エビデンスの陰に埋もれた目の前の患者さんに対して、我々がなすべきことはなにか？ ProとConに分かれて議論を戦わせましょう。

ランチョンセミナー : 志賀 剛先生、香坂 俊先生、尾野 亘先生、真鍋 晋先生、中川 義久先生 35分

「この人はあの時何を！」

本日この会場で指導している講師陣が参加者の方々と同年代の時代をどのように過ごしていたのか？ 何を考えていたのか？ をリレー形式で紹介します。皆さまの今後の循環器内科としての人生設計に役立つヒントがあるかもしれません！

午後のセッション : 西原 崇創先生、田端 実先生、真鍋 晋先生

120分

「実践、ハートチームアプローチ！ ハイリスク重度ASの治療方針をとことん議論しよう」

内科 : 西原 崇創先生

外科 : 田端 実先生、真鍋 晋先生

我々が最も頻繁に診る弁膜症になった大動脈弁狭窄症。今回はハイリスクの大動脈弁狭窄症症例の治療方針をチームで検討していきます。循環器疾患の多くは、治療の選択肢や患者像が多様化し、病態だけでなく人や社会背景も見え目が問われています。TAVIや弁置換術のみならず、緩和ケアを含めた内科的アプローチも大切です。患者や家族の意思はどうか？ 手術のリスクはどれくらいか？ 解剖学的にTAVIは可能か？ このセッションでは、内科、外科の垣根を越えてハートチームとしての包括的なディスカッションに参加してみましょう。

Basic Science Lecture :

40分

「生体内におけるATP動態の可視化とその可能性」

座長 : 尾野 亘先生

演者 : 山本 正道先生

ATP(アデノシン三リン酸)は生体に重要なエネルギーで、心機能などを説明する教科書にもよく出てきます。しかし、1細胞や臓器レベルでの動態を調べる方法がなかったため、これまでには間接的な証拠でしか説明されていませんでした。今回、世界で初めてATPの動態を調べる事ができたので紹介します！ 一緒にどの様な臨床研究に応用できるか考えてみませんか？